

2022年度 事業報告書

2022年度における重要無形文化財人形浄瑠璃文楽の伝承及び普及事業については、新型コロナウイルス感染症（以下：新型コロナ）拡大防止対策を万全に講じつつ、事業活動を行った。本公演は予定する全ての公演を開催することができたが、地方公演、特別公演は、新型コロナウイルスの影響を受け、幾つかの予定していた公演が中止になった。

年間通じて、制約を受けながらの事業活動ではあったが、協会においては、関係各所のご支援をいただき、地方公演、特別公演等の主催または協力公演を通じて、人形浄瑠璃文楽の普及啓発に取り組んだ。

1. 公演事業

(1) 本公演（国立文楽劇場、国立劇場主催）

公演日数は、大阪・東京を併せて、136日となり、予定していた公演を全て開催することができた。

（公演数は、新型コロナ拡大防止のため、本年度も3部制を継続した）

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	4/2～4/24	22日 66回	13,539人
	7/16～8/4	19日 57回	14,428人
	11/5～11/27	22日 66回	15,724人
	(2023) 1/3～1/25	22日 66回	16,701人
計		85日 255回 (84日 252回)	60,392人 (52,268人)
東 京 (国立劇場)	5/7～5/24	17日 51回	15,190人
	9/3～9/20	17日 51回	14,831人
	(2023) 2/4～21	17日 51回	19,074人
計		51日 153回 (33日 97回)	49,095人 (23,393人)
合 計		136日 408回 (117日 349回)	109,487人 (75,661)

(2) 地方公演（文楽協会主催）

地方公演は、本公演がない秋季及び春季に全国各地を巡演し、各地の文楽愛好家の期待に応えるとともに、新規顧客の開拓に取り組む事業である。2022年度は、前年度に引き続き15会場での公演となった。

() 内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
広島、弘前、札幌、 名古屋、静岡、仙台、 金沢、平塚	9/28～10/15	8日 16回 (7日 14回)	5,322人 (4,734人)
北九州、府中、宇都宮、 高崎、京都、津、藤沢	(2023) 3/5～3/21	8日 16回 (9日 18回)	5,211人 (5,447人)
合 計		16日 32回 (16日 32回)	10,543人 (10,181人)

(3) 青少年を対象とした公演（国立文楽劇場・国立劇場主催）

青少年を対象にした公演は、国立文楽劇場及び国立劇場主催の「文楽鑑賞教室」を大阪（14日28回）、東京（13日23回）で実施したほか、同じく国立文楽劇場及び国立劇場主催による若手技芸員を中心とした「若手公演」は、6月の大阪公演、6月、12月の東京と予定通り実施することができた。

①文楽鑑賞教室（国立文楽劇場・国立劇場主催）

() 内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大阪 (国立文楽劇場)	6/2～6/16	14日 28回	15,557人
東 京 (国立劇場)	12/6～12/19	13日 23回	9,685人
合 計		27日 51回 (24日 47回)	25,242人 (10,365人)

②若手公演（国立文楽劇場・国立劇場主催）

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	6/18, 19	2日 2回	919人
東 京 (国立劇場)	6/25, 26	2日 2回	1,025人
	12/6~12/19	13日 13回	6,263人
合 計		17日 17回 (16日 16回)	9,207人 (7,607人)

(4) 特別公演事業

特別公演事業については、引き続き、新型コロナの影響を受け、8月の内子座文楽公演が中止になり、年間200日程度公演しているギオンコーナーも中止となった。

しかしながら、「COOL文楽SHOW」等、新たな切り口での文楽公演にチャレンジすることができた。また、SNSを使った動画配信では多言語による文楽入門編のような内容の動画を作成した。

・主な特別公演事業

公 演 名	期 間	日数・公演数	観 客 数
長門文楽	7/3	1日 1回	393人
中之島文楽	10/14, 15	2日 4回	1,040人
博多座文楽	12/22, 23	2日 3回	1,664人
大正区公演	1/29	1日 1回	200人
ヴィアール大阪 はじめての文楽	2/25	1日 2回	351人
COOL文楽 show	3/16, 17	2日 2回	1,182人
みて きいて ぶんらくのおはなし こども本の森 中之島 (大阪市)	3/25	1日 2回	144人

2. 伝承事業

2022年度(2023年3月31日現在)の契約技芸員数及び内訳は、次のとおりである。

契約技芸員数	太夫	三味線	人形
83名	21名	21名	41名

技芸の伝承・向上を目的として、師匠・弟子間の研修・指導に重点をおいた取り組みを推進するとともに、技芸員の舞台活動を支援するために必要な着付、黒衣、三味線等の購入等に際し助成を行った。

蝠聚会など例年開催される若手技芸員による自発的な勉強会も復活できた。

そのような中でも1年間真摯に舞台を務め、技芸の向上が著しい若手技芸員に対し、例年どおり文楽協会賞を贈った。

(1) 若手技芸員発表会 8月 蝠聚会 (国立文楽劇場小ホール)

(2) 文楽協会賞表彰 3名

(太夫) 竹本碩太夫、(三味線) 鶴澤清允、(人形) 吉田玉路

3. 後継者育成事業

文楽の技芸員を目指す独立行政法人日本芸術文化振興会の第30期文楽研修生2名(太夫1名、三味線1名)に2年間の養成費を助成した(2名120万円)。

第31期文楽研修生1名(人形1名)に養成貸付金の貸与を行った(1名60万円)。

また、文楽協会の研究生3名(太夫2名、三味線1名)に対し、支援費として毎月一人5,000円の支給を行った(3名計18万円)。

4. 普及啓発事業

(1) ミニ公演事業 (大阪府教育委員会)

これまで文楽に馴染みの少なかった人達に、文楽を知ってもらい親しんでもらうため、大阪府内における認知度向上と国立文楽劇場への観客動員増加を目的とした普及啓発事業として、三業の役割解説と短時間の演目を組み合わせた公演を実施した。なお、1月10日に実施予定だった恒例の道頓堀・戎舞台は新型コロナ拡大防止のため中止となった。

実施場所	公演日	観客数
枚方市総合文化芸術センター小ホール	7/7	550人
コスモシアター（貝塚市）	10/19	510人
国立文楽劇場小ホール（大阪市中央区）	3/13	255人

(2) 文楽を中心とした古典芸能振興事業（大阪市）

「文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会」（構成：大阪市、文楽協会）が実施する各種事業に協力した。

- ・「中之島文楽」、「COOL文楽 show」「みてきいてぶんらくのおはなし」の公演事業
- ・「5分でわかる文楽解説」の多言語化
- ・フリーペーパー「知る！観る！人形浄瑠璃文楽」の制作

(3) ワンコインで文楽（11月・初春公演期間中）

コクヨ様のご支援により、若年層（15歳～35歳）をターゲットとしたワンコイン文楽を再開し、475名を動員することができた（公益財団法人関西・大阪21世紀協会／アーツサポート関西文楽支援寄金）。

5. 運営

(1) 評議員会の開催 6月13日

決議事項：2021年度事業報告について

2021年度計算書類について

理事の選任について

評議員の選任について

報告事項：新型コロナウイルスの影響について

(2) 理事会

- ・第1回理事会 5月26日

決議事項：2021年度事業報告について

2021年度計算書類について

評議員会の招集について

文楽協会ロゴマークの登録について

報告事項：理事長の職務執行状況報告について

新型コロナウイルスの影響について

・第2回理事会 3月17日

決議事項：2023年度事業計画について

2023年度収支予算について

文楽基金の一部取り崩しについて

2023年度国庫補助事業実施決議について

運営資金の短期借入れ並びに担保の提供について

規程の一部変更（職員就業規則）

報告事項：岸本忠三文楽支援基金取崩し見込み額について

理事長の職務執行状況報告について

公益財団法人文楽協会賛助会員の入会状況について

（3）賛助会員制度の実施状況

文楽協会の安定した財政運営の一助となるよう、当会の事業趣旨に賛同いただく個人、法人から幅広く支援を募る「公益財団法人文楽協会賛助会員制度」は、2023年3月末現在、個人会員217人（1,230口、369万円）、法人会員21社（324口、1,620万円）。

【 附属明細書 】

事業報告書に詳細まで記載しているため、記載する事項はありません。